

目次
第I部

対話 1	五月十七日	002
対話 2	五月十八日・午前	032
対話 3	五月十八日・午後	074
対話 4	五月十九日・午前	102
対話 5	五月十九日・午後	136
対話 6	五月二十日・午前	174
対話 7	五月二十日・午後	209



第二部

第1章——瞑想とは、意識の中身を空にすることである……………250

第2章——葛藤の終焉は、叡智の一形態である至高のエネルギーの結集である……………258

第3章——否定から、愛と呼ばれる肯定的なものが生まれる……………264

第4章——死——大いなる浄化の作用……………271

第5章——巧妙で、しかも自己を存続させない行為……………275

第6章——理性と論理だけでは真理を発見できない……………280

第7章——叡智——そのなかに完全な安定がある……………286

第8章——否定から肯定的なものが生まれる……………292

第9章——空間があるから〈空〉と全的な沈黙が存在する……………302

第10章——洞察のある精神の状態は、完全に空っぽである……………309

第11章——苦しみがあるところでは、とうてい愛することはできない……………315

第12章——悲しみは、時間と思考の結果である……………319

第13章——死とは何か……………329

第14章——その〈空〉はあらゆるエネルギーの集約である……………333

第15章——〈私〉が存在しないとき、慈悲心が生まれる……………343

第16章——観察者と観察されるものとのあいだの分裂は葛藤のもとである……………349

第17章——中身をもつ意識が終焉するとき、まったく別個のものが現われる……………357

第18章——明晰さがなければ、技能はきわめて危険なものになる……………365

第19章——人はいかにして自分自身を知ることができるか……………369

訳者あとがき

376

